

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 国際水準GAP認証取得支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係

電話番号：058-272-1111(内2868)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 800 千円 (前年度予算額：800 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	800	400	0	0	0	0	0	0	400
要求額	800	400	0	0	0	0	0	0	400
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・将来にわたって食料の安定供給を図るために国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料生産の基盤となるGAPの取組みの普及は急務となっている。
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、産地等におけるGAPの認証取得等の取組みを支援してきた。
- ・他産地に先がけて、農業者がGAPの第三者認証を受けることで、販売戦略に活かし、取引先として選ばれやすくなるなどメリットがあることから、認証取得を支援することはGAPの定着を図る上で有効である。

(2) 事業内容

①国際水準GAP認証取得条件整備支援(800千円)

- ・国際水準のGAP認証を取得するために必要な認証審査に要する経費を支援する。

事業実施主体：認証取得を目指す地域のモデルとなる農業者等

(3) 県負担・補助率の考え方

①県1/2以内

(4) 類似事業の有無

GAPチャレンジ推進事業費補助金(農産園芸課)

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	800	国際水準の「GAP認証を取得する」ために必要な認証審査に要する経費を助成する。
合計	800	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（施策編）
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ④「ぎふブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

- ・国令和12年度目標：ほぼ全ての国内産地で国際水準のGAPを実施
- ・平成30年度、令和元年度は国交付金対象。令和2年度からは対象外。
- ・国策定の「みどりの食料システム戦略」の具体的な取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」及び「労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大」が位置づけ。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・GAP（農業生産工程管理）は農業者が実践するものであるため、支援を行うことで、県内生産者へGAPが普及・定着する。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	国際水準GAP認証取得支援事業費補助金
補助事業者(団体)	農業法人、農業者の組織する団体、農業者 (理由) GAP(農業生産工程管理)は農業者が実践するものであるため。
補助事業の概要	(目的) 「GAP認証を取得する」の推進 (内容) 国際水準の「GAP認証を取得する」ために必要な認証審査に要する経費を助成する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) 1/2以内 (理由) 前年度と同水準。
補助効果	県内農業者にGAPの取組みが普及・定着する
終期の設定	終期 令和5年度 (理由) 輸出や県外の流通事業者等との取引において、GLOBALG.A.P.等の国際水準GAPの第三者認証取得が必要な場合があり、産地からの要望がある。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>ぎふ清流GAPの実践率を令和7年度までに35%に増加させ、国際水準GAPの認証取得に容易に移行できる農業者を増やすことで、産地の競争力をアップさせる。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前(H29)	R2年度実績	R5年度目標	R6年度目標	終期目標(R7)	達成率
①GAPを实践する担い手(経営体)数	41	252	1800	(R3から②に移行)	-	
②ぎふ清流GAPの実践率	-	0%	15%	25%	35%	

補助金交付実績 (単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度
	859	1,790	0

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、審査を次年度に延期する農業者があり、農業者からの事業実施の要望はあったものの、事業実施の実績としては無しとなった。
	指標① 目標：1800 実績：252 達成率：14 %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	県民の「食の安全・安心」や環境保全への関心が高まり、また持続可能な農業の実現には、農業現場におけるGAPの普及は重要となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 1	令和2年度は事業の活用はなかったが、令和3年度以降は国際水準GAPの第三者認証取得の見込みがあり、引き続き制度を推進していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	交付申請書類、実績報告書等の審査及び現地調査等を農林事務所に事務委任することで、現地の実情に即した効率的な事業の実施を可能としている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 認証取得後、毎年、維持審査費用が必要となることから、農業者から支援を求める声がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 国の目標に呼応し、2030年度までに県内ほぼ全ての産地で国際水準のGAPを実施している状態とするためには支援が必要。
